

西伊豆町

地形概況

東部は猫越火山から長九郎山に至る山脈がつづき、仁科川とその支谷が深い谷を作成する。仁科の大浜海岸の砂堆・閉塞低地・谷底低地などが平野を構成する。田子は湾を囲む堆積性緩斜面からなり、堂ヶ島から浮島にかけての岩石海岸は美しい景観をもつ。

地質概況

猫越火山の安山岩類が東部にみられ、仁科川ぞいには湯ヶ島層群が広く分布し、変朽安山岩・火山礫岩・凝灰角礫岩からなり、白川玄武岩類も分布する。西部には白浜層群の白色凝灰岩類・石英安山岩類が分布し、海岸の風景美を形成している。

気象概況

年平均気温は推定 15.5℃、年平均降水量が推定 2,220mm であり、冬季に暖かく夏季も高温にならないため、気温較差が小さく過ごし易い。降水量は県平均値に比べてやや少なく、日の当たる日が1年を通じて50%以上で、冬季には平均4m程度の西風が吹く日が多い。

災害事例 地震

- 1978年1月14日（昭和53年）伊豆大島近海地震 M=7.0
被害は負傷者8人、住家全壊7戸、半壊34戸、公共建物2箇所、文教施設7箇所、道路92箇所、河川3箇所、港湾施設4箇所、水道106箇所、清掃施設1箇所、崖崩れ5箇所、通信施設109箇所などに及んだ。
- 1974年5月9日（昭和49年）伊豆半島沖地震 M=6.9
半壊1戸、一部損壊8戸、山(崖)崩れ4箇所などの被害を生じた。
- 1854年12月23日（安政元年）安政東海地震 M=8.4
田子で大地震という記録が残っている。
- 1498年9月20日（明応7年）明応地震 M=8.2~8.4
古い大地震で、状況がよくわかっていないが、田子仁科で震度5程度と推定されている。

災害事例 津波

- 1854年12月23日（安政元年）安政東海地震津波
田子で250戸の集落ごとごとく水漬との記録がある。波の高さは正門で3m、田子で4.5~5mと推定される。また津波は地震後3分程度で到達しただろうと実験的に推定できる。
- 1605年2月3日（慶長9年）慶長地震津波
仁科で“海溢れ陸地に12~13町浸水”ということから津波の高さ3~4mと考えられる。
- 1498年9月20日（明応7年）明応地震津波
津波の高さは、田子・仁科で4~5mと推定できる。仁科で陸地に18~19町、寺川以下の田圃に浸水と記録に残っている。

災害事例 高潮

- 1979年10月19日(昭和54年)台風20号
床上浸水1戸、床下浸水34戸の被害があった。
- 1961年9月16日(昭和36年)第2室戸(18号)台風
床上浸水5戸、床下浸水22戸の被害を生じた。

災害事例 台風

- 1958年9月26日(昭和33年)狩野川(22号)台風
伊豆半島一帯で被害甚大。死者・行方不明1,000人以上にのぼった。西伊豆町では全壊2戸、半壊18戸、流失4戸、床上浸水113戸、床下浸水412戸、流埋田畑6haの被害を生じている。
- 1940年7月13日(昭和15年)
被害は伊豆半島南部に集中し、仁科では床上浸水70戸、床下浸水150戸、流失埋没田畑40ha、また田子では死者1人、床上浸水150戸、床下浸水250戸、流失埋没田畑153haに及んだ。